

4-1 地域ビジネス革新プロジェクトの目的と概要

1. 地域ビジネス革新プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、地域（主に農村地域）を対象として、ビジネス（経済行為）やコミュニティ（社会関係）の革新により、地域を豊かにすることである。そのために、①基礎となる専門的学力を身に付けるとともに、現地の実態に触れ、考え・意見を纏める力を養う。②地域ビジネスや地域振興の企画立案・実践に取り組む意欲と力量を身に付ける。③食と農に関わる地域ビジネスや、それを支える流通システム、持続的社會に向けた農業のあり方、農村社会構造を理解し、未来を見据えた地域ビジネスや農村についての分析力を獲得し、課題解明と解決に向けた卒業研究に取り組む。

2. 本学年の目標と活動内容

3年次では、農業・農村の活性化に必要な知識や分析手法を学び、秋田県における6次産業化や持続的農業の取り組み、地域資源を活用した取り組み、観光と伝統継承の両立について現状と課題の分析をおこなった。以上の活動から導き出した。今年度の卒業課題の分野は、①地域ブランド、②流通システム、③持続的農業、④新しい農業・農村である。

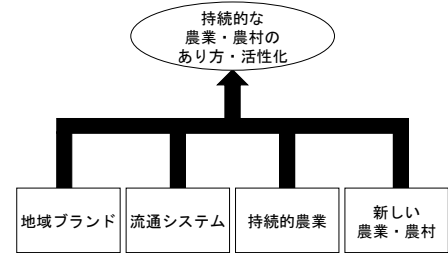


図 卒業研究課題の分野

3. プロジェクトにおける卒業研究の課題と位置づけ

1) 地域ブランド

4-2 白神ねぎの産地化のプロセスとメガ団地の現状（徳田 陽介）

園芸振興による収益性の高い農業構造への転換が大きな課題となっている。本研究では、園芸振興が進んでいく中でのねぎ生産の産地化のプロセスとメガ団地化の取組の展開を明らかにする。

2) 流通システム

4-3 秋田県における直接契約による加工・業務用野菜の展望について—玉ねぎを事例に—

（小笠 順義）

玉ねぎの産地化に取り組む JA 大潟村及び JA 大潟村と直接契約を結んでいる加工会社 2 社を対象に、契約内容や課題などを明らかにし、秋田県における加工・業務用野菜の展望について考察する。

4-4 秋田県内小売事業者におけるネット販売事業の特徴（太田 陽佳梨）

近年、Eコマース市場規模は拡大してきているが、地方の小売事業者が行うネット販売事業の取り組みについては明らかにされていない。本研究では、ネット販売事業の運営体制とマーケティングの分析を通じて特徴を明らかにし、秋田県の特産物の販売手段として有効か考察する。

3) 持続的農業

4-5 秋田県における野菜の有機農業の現状と課題（高田 悠太）

みどりの食料システム戦略で有機農業の拡大が掲げられているのに対し、秋田県では水稻の有機農業は一定の取り組みが見られるものの、野菜の有機農業は非常に限定的である。そこで、野菜の有機農業を対象に、現在の取り組みを類型化し、類型ごとの現状と課題を明らかにする。

4) 新しい農業・農村

4-6 現代における農業テーマパークの展開可能性

—新しい農業テーマパーク（クルックフィールズ）を事例として—（加賀屋 星華）

農業テーマパークが今日的な田園回帰の傾向の農業農村サイドの受け皿として有効ではないかとの認識のもと、今日登場している新しい農業テーマパークまでの変遷を概観し、その特徴を明らかにし、展開可能性について考察する。

4-7 交流活動を伴う農業の成立過程と周囲との関係性について（菅原 慎）

農業における生産者と消費者の交流活動には多くのメリットが挙げられているが、交流活動を開始するまでの過程や、地域住民などとの関係性については明らかにされていない。そこで交流活動開始までの過程と、周囲との関係性を明らかにし、活動開始までに必要な条件を考察する。